

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

2025年10月17日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	市民とともに		代 表 者	
			議員名	橋本 維文
派遣者氏名	肥後淳三、大西憲司、橋本維文			
視 察 先	① 真庭市下湯原温泉ひまわり館 岡山県真庭市下湯原 24-1 ② 美郷町役場 島根県美郷町粕淵 168 ③ 雲南市役所 島根県雲南市木次町里方 521-1 ④ 旧出雲市立光中学校 島根県出雲市奥宇賀町 854 番			
調 査 事 項 (調査目的)	① 真庭市：ジビエカーの導入について ② 美郷町：ジビエ肉・骨の活用について ③ 雲南市：地域自主組織について ④ 出雲市：中学校の廃校利用について			
日 時	2025年8月4日(月)午前9時30分～8月6日(水)午前11時30分			
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要	
	宿泊料	27,000	13,500円×2泊	
	日 当	9,000	3,000円/1日×3日	
	鉄道賃			
	航空賃			
	バス賃			
	船 賃			
レンタカー	16,327	レンタカー 33,660/3=11,220円 燃料費 5,379/3=1,793円 高速代 往路：6,890/3=2,297円 復路：3,050/3=1,017円		
その他	5,796	手土産 2,484×7ヶ所/3人=5,796円 市町4ヶ所、事業者等3ヶ所(ジビエカー管理、ひまわり館、養殖事業者)		
合 計	58,123			
備 考				

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。
個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2025年10月17日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	橋本 維文
派遣者氏名	肥後淳三、大西憲司、橋本維文		
視察先及び調査事項(調査目的)	① 真庭市下湯原温泉ひまわり館 岡山県真庭市下湯原 24-1 / ジビエカーの導入について / ② 美郷町役場 島根県美郷町粕淵 168 / ジビエ肉・骨の活用について / ③ 雲南市役所 島根県雲南市木次町里方 521-1 / 地域自主組織について / ④ 旧出雲市立光中学校 島根県出雲市奥宇賀町 854 番 / 中学校の廃校利用について /		
日 時	2025年8月4日(月) ~ 2025年8月6日(水) 午前9時30分 午前11時30分		
視察先対応者	① 真庭市役所 農業振興課長 芦川 徹 様 / ジビエカー管理運営会計年度任用職員 2 人 / 議会事務局主査 矢鳴 孝一郎 様 / 下湯原温泉ひまわり館理事長 池田 公博 様 / ② 美郷町役場 美郷バレー課 安田 亮 様 / ③ 雲南市議会 副議長 原 祐二 様 / 雲南市役所 地域振興課 大谷 吾郎 様 / 議会事務局総務課 武田 智紀 様 / ④ 出雲市役所 管財契約課係長 津田淳 様、主査 園山純浩様 / 昭和開発工業代表取締役 荒木克之 様、 ひかり養殖場場長 山岡麻衣 様 /		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可			
・ 視察資料 別添 ・ 調査結果及び所見は、別紙 1 : 真庭市、 別紙 2 : 美郷町市、 別紙 3 : 雲南市 別紙 4 : 出雲市 に添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

視察先①：岡山県真庭市

日 時：8/4(月)10時～12時

目 的：ジビエカーの導入について

◆真庭市の概要

人口：約 4.1 万人

面積：約 828 km² (市域の 8 割が森林、農地は 0.9 割)

産業：農林業、国内有数の木材集散地

財政規模：一般会計 337 億円、特別会計 203 億円
(公営企業含む) (2025 年度)

合併：2005 年に 9 町村合併により真庭市誕生



◆有害鳥獣対策について

有害鳥獣による被害が年々厳しくなっている対策として、2023 年に真庭市鳥獣被害防止計画を策定する等、被害抑制対策に力を入れている。2025 年度予算においても 134,697 千円 (前年比+3,35 千円) と重点施策として注力をしている。

◆ジビエカー導入に関する経緯：

有害鳥獣の捕獲による頭数軽減が求められている中で、

- ・ 猟友会員の負担軽減対策 (従来は、埋設・廃棄処理が主流)
- ・ 食肉として利用していくため、迅速な回収・解体を行う必要から、処理施設等の整備及び整備に要する負担を検討した結果、ジビエカー (ジビエカー+ジビエカーjr.) の導入を決定した。

導入することにより見込まれる効果は

- ・ 迅速な処理で捕獲個体の商品価値が高まる
- ・ 捕獲数の増加が見込め、農林業の被害軽減が期待される
- ・ 駆除班員の埋設、捕獲確認の負担軽減が可能
- ・ 固定の処理施設よりも機動性、コスト面が有利

2018 年にジビエカー導入

- ・ 事業費：27,500 千円 (内国庫 15,125 千円、過疎債 12,100 千円)

- ・ ジビエ体制 (スタッフ)：会計年度任用職員 4 人、地域おこし協力隊 1 人 (2024.10.1 現在)



◆今後

- ・ 真庭市、地元猟友会、地域住民と常に連携を取り合い、真庭市の地域資源としてジビエの利活用により産業化を計り、地域のブランド化、循環型農業を目指す

【視察を通じて】

害獣による農林業に与える被害が待ったなしの状況に対し、効果のある具体的な対策が求められている状況は、三田市においても同様です。導入に際しての財源は、真庭市は「過疎債」の活用により、一般財源の持ち出しを少なくすることが導入決定の後押しをしたと推察されます。

有害鳥獣による被害対策は、三田市においても課題認識は持っているが、切迫感が少ないように見受けられます。「なんとかしなければいけない」という強い意識を市全体として持つことが、具体的な対策を講じるための第一歩になるのではないかと考えます。